

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大砂土小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全学年、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。「ドリルパーク」等の、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしながら個別の学習支援を充実させることもできた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援やデジタルコンテンツの活用は次年度も行っていく必要がある。次年度も児童主体の学習を継続していくとともに、「何を学んだのか」を一人ひとり蓄積していけるよう、スクールダッシュボードの活用も図ってきたい。
思考・判断・表現	全学年、思考力・判断力・表現力の向上を図ることができた。ICTを活用することで話し合いを視覚化したり、たくさんの友達の考えに触れたりすることで、互いの考えを深めたり広げたりするのに効果的であった。次年度は各教科の授業で「自分の考えが伝わるように表現すること」「話し手の意図を捉えながら聞くこと」を意識した話し合い活動や根拠を明確にして自分の考えをまとめる活動を引き続き重視していきたい。

今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> ・基礎的な知識・技能に関する学習では、全ての学年で概ねよく定着が図られている。 ・3・4年生の国語「我が国の言語文化に関する事項」に関する領域で、やや課題がみられる。 ・二極化を示す傾向にある。	中学年に至るまでの低学年段階からの確実な知識・技能の定着を図るために、ドリルパークやスタディサプリなどのデジタルコンテンツを活用した授業改善をさらに進めていく。また、学習履歴などを活用して、個に応じた指導の充実を図り、学力の二極化に対応できるようにしていく。
思考・判断・表現	<学習上の課題> ・知識・技能を生かした課題解決では、学年が上がるにつれて上昇する傾向にある。 ・算数「データの活用」に関する領域で、やや課題がみられる。	1人1台端末を生かした授業を効果的に展開し、ICTを活用した学び合いを通して思考力・判断力を育成する。また、高学年においては、教科担任制により教科の専門性を高めた指導力を教師に身に付けさせ、児童の多様な考えを生かした指導方法の工夫改善に取り組むことで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	全学年、教科書の適用問題やドリルなどの紙ベースの問題だけでなく、ドリルパークやスタディサプリなどのデジタルコンテンツも積極的に活用した授業を進めたことで、反復練習が習慣化し、習熟を図ることができた。また、一人ひとりの学習進度に対応した個別支援の時間確保にも効果的であった。スクールダッシュボードなど学習履歴の活用については少しずつ進めている。
思考・判断・表現	A	1人1台端末を生かした授業を展開し、ICTを活用した学び合いや協働で学習する機会を積み重ねたことで、思考力・判断力・表現力を育成することができた。また、高学年は教科担任制により専門性を高めた指導を行い、児童の多様な考えを生かした指導法や児童の学習活動を中心に据えた授業改善に取り組むことで、思考力・判断力・表現力の育成を図ることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語及び算数とも全国平均を大きく上回っている。しかし、選択式の問題にもかかわらず、全国の無回答率に比べ、本校の無回答率が高い。また、昨年度も課題であった「我が国の言語文化に関する事項」が全国平均正答率に比べて、「+3、0P」と3つの事項では伸び率が低い。文章を書く目的や意図を確認して伝えたいことを明確にしたり、事実が考えを裏付けるものとなっているかどうかを授業時に確認したりする必要がある。さらに、伝えたいことがより明確に書き表せるようにするために、教師が観点を明確に示し、児童が書いた文章を自身で読み返したり友達と確かめ合ったりする活動を重視していきたい。算数科については、高い正答率を維持しており、意欲も高い。この状態を維持できるように、引き続き子どもも主体的な学びとなるような授業を今後も継続していく。
思考・判断・表現	国語科の「思考・判断・表現」では、「自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるか」の問いについて、唯一課題が残った。授業では、話し手の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、話す際の材料を集め、分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を考えることが大切であり、学習活動を振り返る際などに、聞き手が知りたいことを想定して内容を検討し、表現することも効果的だと考える。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	ほぼすべての教科・学年でさいたま市の平均を上回った。特に算数ではさいたま市の平均を全学年4~8ポイント程度上回った。ただし、国語では「主語と述語の関係を理解すること」、算数では「演算の意味の理解」や「割合の概念」、社会では「地図記号」や「年表と出来事の関係」、理科では「用語の正しい意味」「物の性質」に課題が見られた。
思考・判断・表現	すべての教科・学年でさいたま市の平均を上回った。特に算数ではさいたま市の平均を全学年4~8ポイント程度上回った。ただし、国語では「自己の考えが伝わるよう工夫すること」、算数では「複数の数量から必要な数量を選び立式すること」、社会では「生産者の工夫や努力について考えること」、理科では「実験や事象の結果の予想及び見通し」に課題が見られた。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	ほぼ達成。教師は学びの場をデザインすることを意識し、子ども達が教師に指示された同じ使い方をするのはなく、子ども自身が学び取る授業改善を図る。また、個別最適な学びにおいては、対話や振り返りの時間を十分に取ることを実施する。	変更なし+左記による
思考・判断・表現	B	ほぼ達成。今後は協働で学習する必要性を一段階レベルアップしていく。協働で思考する際に、考えをクラウド上で可視化し整理したり、比較したりする。また、クラウド上以外に、成果物をアウトプットする。	変更なし+左記による

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)